

## リレー随想

結婚披露宴も無事終わり、後かたづけで会場はこたごたしていた。

会場の後かたづけが済んだら、この後、手伝いをしてくれた実行委員のメンバーと、食事をする予定であった。

家内が「長崎先生も誘って」と、ウエディングドレスを着替えてに控室へ戻る途中で言ったので、そのことを伝えにいった。先生は数日前から風邪が治らず、体調が悪いので遠慮するとのこと。

長崎先生とは、横浜在住の児童文学者の長崎源之助氏。小学校三年生の国語の教科書に「つりばしわたれ」という作品が掲載されている。

実行委員の多くは、文芸サークルの仲間たちなので、こうして先生が来てくれるとつれし

## 打ち上げ

土地家屋調査士

田口一法さん



い。残念に思ったことだった。実行委員のみんなには、本当

にお世話になった。

垂れ幕を作ってくれた看板屋の夫婦。朝早くに本荘の花市場まで買い出しに行ってくれた仲間。司会をしてくれた友人。アコーディオンで場の雰囲気をつくってくれた中学生。

今改めて当時を思いかえしてみると、本当にありがたい。

アルコールなしの披露宴で、替わりにコーヒート紅茶を準備させてもらったが、三百人近い人数のコーヒートを、文芸サークルの仲間がよく集まる喫茶店のマスターに淹れてもらった。

世話になったので、マスターも食事会へ誘ったが、この後店があるとのこと。

「店に帰ってから、ゆっくりこの感動をかみしめるよ」。マスターは、一緒に手伝ってくれたウエイトレスのSさんを促すようにしてそう言った。

「こういつ結婚式の手伝いをさせてくれて、本当にありがとう」

マスターがそう言ってくれると家内は脇で涙ぐんでいた。

(熊本市花園、47歳)